



# 三木の祭り屋台 紹介リレー その1

市では、市制施行70周年記念事業として、10月26日に「三木の祭り屋台大集合」を開催します。ここでは、地域に代々伝わるお祭りで奉納されている「祭り屋台」の魅力と文化を守り育てる皆さんを紹介しします。(31ページに春まつりの詳細情報)

問 (市)企画政策課 企画政策係



## 加佐西 (三坂神社)

平成18年に購入。布団締めは「阿吶の鯨」、狭間彫刻は唐獅子牡丹、屋提灯は「阿吶の籠」、水引幕は「阿吶の追い龍」、高欄掛けは源平合戦一ノ谷の戦い「白馬に跨る源義経」、「長刀を持つ弁慶」、「平家方の武者」、「鷲尾三郎熊退治」の四幕。全長6m、全幅2.5m、全高2.6mとなっています。

三坂神社 春祭り  
【宮入】5月2日(木)、3日(金)



## 加佐東 (三坂神社)

昭和29年の台風で屋台庫ともども大破し翌30年に新調。布団締めと提灯は阿吶の籠をそれぞれに刺繍。水引幕は2尾の龍が勇猛に演出されている。高欄掛けは、川中島の合戦を舞台に各武将をあしらい、雲板には前後に鳳凰、左右に龍を彫刻。桝組の細工が珍しい仕様となっています。

5月2日、3日の2日間、加佐西、東の両町で、春祭りを開催しています。1日目はそれぞれの町内巡行を中心に、デイサービスセンター三木北で合流し、練り合わせ。2日目は両町屋台による三坂神社宮入、練り合わせ、馬かけ奉納など、賑やかな催しで目白押しです。

加佐西自治会  
区長 戸田 公誠 さん



石野地区では、4、5歳児による囃子、宮の氏子による獅子舞を奉納します。東這田地区の獅子舞には、鈴の舞、幣の舞、早返り、ほらがい、諫メシ、新舞の6つの舞があり、頭と後ろ持ちで舞ごとに奉納します。

先代から受け継いだ伝統文化を次の世代に引き継ぐため、これからも熱い思いを持って、みんなで一致団結し、地域を盛り上げていきます。



東這田地区  
区長 志原 浩基 さん



## 石野 (御酒神社)

平成11年に新調し、後に大きな反り屋根に改修。令和元年に担ぎ棒を杉に変更、鳴り太鼓は2尺5寸を使用しています。御酒神社の例祭では、宮と公民館をつなぐ坂道を登る「急坂登り」が見どころ。石野独自の「上げ歌」「色歌」が特徴で氏子の誇りです。

御酒神社 例祭  
【宵宮】5月3日(金)  
【本宮】5月4日(土)



## 東這田 (美坂社)

淡路の柏木福平によって昭和3年に建造、平成14年に大改修。狭間彫刻は井波彫刻師の川原啓秀作「楠公子別れ桜井の駅」など、水引幕は「平清盛と安芸の宮島」、背面には赤間神宮、高欄掛は「壇ノ浦の合戦」、鳴り太鼓は2尺4寸を使用しています。

東這田 美坂社 祭礼  
【宮入】5月3日(金)、4日(土)

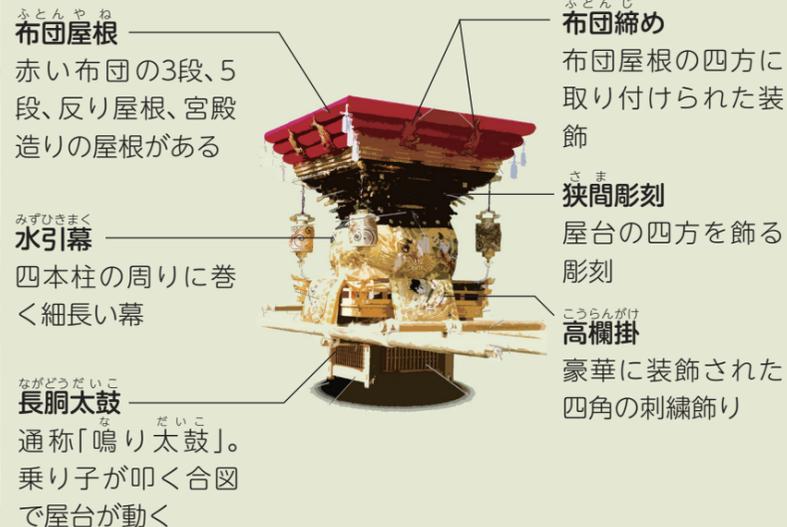
## 屋台とは？

五穀豊穡や疫病退散、不老長寿などの願いを込めて担ぐものです。

三木の祭り屋台は、「布団屋台」や「タイコ」とも呼ばれ、大工、刺繍、彫刻、鋳金具、鳴り太鼓といった職人の技が見える華やかなものです。

主に、5月の春祭りと10月の秋祭りで見ることができます。

## 屋台各部の名称



## 御坂神社 (旧安福田)

昭和3年に新調。屋台は淡路の柏木福平が製作した総ケヤキ造り。狭間彫刻は越中富山の初代川原啓秀が手掛けました。水引幕は初代の水引幕を復元した「韓のケツ童子」の図。高欄掛は武将の合戦図。屋提灯は二対の阿吶の籠。鳴り太鼓は鏡面2尺1寸を使用しています。

御坂神社 春季例大祭  
【宵宮】5月4日(土)  
【屋宮】5月5日(日)



## 御坂神社 (旧志染中)

昭和2年に購入。布団台が5段あり、3段目中央に大きな龍の浮き彫り彫刻があります。雲板には鳳凰の透かし彫りが施されています。また大きな特徴として、太鼓隠しの土露台部分に土露台彫刻と呼ばれる彫刻が施され、桝組、隅木がないなど、市内でも最古級の屋台です。

御坂神社には2基の屋台があり、春季例大祭には氏子11地区から2地区が神番地区として屋台奉納を行っており、70周年の屋台大集合にもこの2基での参加を予定しています。

少子高齢化による担ぎ手不足を補うため、昨年より神番地区以外の氏子地区から担ぎ手の応援を募り、氏子全体で祭りを盛り上げられるよう頑張っています。

御坂神社太鼓保存会  
会長 山内 基行 さん

